

事前質問への回答(冬季観光の充実・強化) 1/5

項目	内容																								
<p>日中ツアー、夜のツアーの参加日当たりの経費はどのくらいか。</p>	<p>日中ツアーは、1回約87千円。(バス運行経費、ガイド経費) 夜のツアーは、1回約90千円。(バス運行経費、ガイド経費、照明車両運行経費)</p> <p>※なお、夜のツアーは、1回あたりの経費のほかに、LED投光器・蓄電池等購入費16,146千円、照明計画・設計・監修業務委託料3,439千円、合計19,585千円の初期費用がかかっております。</p>																								
<p>十和田湖温泉スキー場の年間利用者数(月別)とスノーパーク整備による増加はどのくらいか(昨年比で)。</p>	<p>十和田湖温泉スキー場年間利用者数 (人)</p> <table border="1" data-bbox="504 634 1789 941"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>169</td> <td>4,907</td> <td>4,983</td> <td>1,130</td> <td>11,189</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>810</td> <td>3,707</td> <td>4,217</td> <td>1,300</td> <td>10,034</td> </tr> <tr> <td colspan="3">29年度スノーパーク利用者数(内数) ※スノーパークは小雪により2月開設</td> <td>125</td> <td>68</td> <td>193</td> </tr> </tbody> </table> <p>・29年度のスキー場年間利用者数は、小雪等の影響で、前年度より1,155人の減となっております。</p>	年度	12月	1月	2月	3月	合計	28年度	169	4,907	4,983	1,130	11,189	29年度	810	3,707	4,217	1,300	10,034	29年度スノーパーク利用者数(内数) ※スノーパークは小雪により2月開設			125	68	193
年度	12月	1月	2月	3月	合計																				
28年度	169	4,907	4,983	1,130	11,189																				
29年度	810	3,707	4,217	1,300	10,034																				
29年度スノーパーク利用者数(内数) ※スノーパークは小雪により2月開設			125	68	193																				
<p>スノーエスカレータの規模と設置額はどのくらいか。</p>	<p>スノーエスカレーターは、約40mの長さのものを設置する予定です。設置費は、スノーエスカレーター本体と電気工事、その他備品等を含め、16,200千円の予算額となっております。</p> <p>なお、平成30年度、平成31年度の2年計画で合計約80mとする予定です。</p>																								

事前質問への回答(冬季観光の充実・強化) 2/5

項 目	内 容
スノーパーク開催時期について、平成30年度はスキー場の開始時期と同一か。	平成30年度は スキー場営業開始と同時にスノーパークも開始したい と思っております。しかしながら、スノーパークエリアの造成には多量の雪が必要なため、 積雪量によりスキー場営業開始と同一とならない可能性もあります。
事業展開による、市への経済効果の数値は。	資料の19ページにありますとおり、本事業の成果指標としている 十和田市冬季宿泊客数 は平成29年度は60,733人泊となり、平成28年度と比較すると 16,204人泊の増 となりました。 宿泊者数の増加は、すべてが本事業による直接効果というわけではなく、また、経済効果の算出方法は様々な手法があるかと思いますが、例えば、観光庁の平成29年「旅行・観光消費動向調査」における 国内宿泊旅行単価 を1泊に換算すると 約22,000円 (交通費・宿泊費・土産代・飲食費等を含む消費額)となっており、その単価を用いますと16,204人泊×22,000円となり、 経済効果は約3億5,600万円の観光消費額の増 と試算できます。

事前質問への回答(冬季観光の充実・強化) 3/5

項 目	内 容
湖畔、市中心部への入込増等の相乗効果は期待できるか。	<p>平成29年度に実施した奥入瀬溪流氷瀑ツアーは、バスの出発地点が市街地であったことから、奥入瀬だけではなく市街地への冬季の誘客にも効果があったものと思われます。なお、平成29年度は、市街地エリアの冬季宿泊客数も増加（約2,700人泊増）しております。</p> <p>また、平成30年度は十和田湖冬物語とも連携したツアーを実施することや、湖畔側発着のツアーを実施することで、湖畔への宿泊客の増加を図ります。</p> <p>さらに、奥入瀬溪流氷瀑ツアーや十和田湖温泉スキー場スノーパークの取り組みだけで冬季の誘客を図るのではなく、例えば、市街地のアーツ・トワダウインターイルミネーションや、湖畔の十和田湖冬物語、冬の体験メニューである十和田湖冬カヌーや鳶沼のスノーランブリング、また冬の食や温泉など、十和田市に冬に来るとどのようなことができるか、どのような魅力があるかを一体的に発信することで、奥入瀬だけでなく市街地や湖畔も含めた、市全体への相乗効果を期待できると考えております。</p>

事前質問への回答(冬季観光の充実・強化) 4/5

項 目	内 容
<p>すでに目標値の6万人を上回っているが、目標値の変更は予定しているか。また、この状況で達成状況を「おおむね達成できた」としているのはなぜか。</p>	<p>目標値の変更は予定しておりません。 冬季観光の充実・強化事業は、国の「地域再生計画」の認定を受けており、3年計画で当初設定の目標値に対する最終的な成果を評価・報告することとしているためです。 ただし、市が事業を毎年実施していくにあたっては、前年度の実績を踏まえ目標値となる冬季宿泊客数の増加に努めていくこととしております。</p> <p>また、「おおむね達成できた」としたのは、数値的な目標は達成しているものの、29年度は取組の初年度でありツアーの開催方法や照明車両の運用、湖畔との連携など改善の余地があり、さらに冬季の誘客につなげることができると考えているため、「おおむね達成できた」という評価にとどめております。</p>
<p>宿泊者数のうち、日本人と外国人の内訳はどうか。外国人旅行者については、流行の要素があり流動性がリスクとして考えられるが、その点について、どのように考えているか。</p>	<p>実績値である十和田市冬季宿泊客数60,733人泊のうち、外国人は8,973人泊となっております。 本市の外国人旅行者の割合はまだまだ低く、国内旅行者が人口減少に伴って今後も減少していくことを鑑み、市といたしましては今後も外国人の誘客増に取り組んでいきたいと考えております。</p>

事前質問への回答(冬季観光の充実・強化) 5/5

項 目	内 容
29年度のプロモーション手法や開催ツアーの効果とそれをフィードバックした30年度における改善点があるか。	29年度の効果については、資料の11ページ、17ページにてご説明しております。 30年度は氷瀑ツアーそのもののブラッシュアップと他の冬季観光コンテンツとの連動を図るなどの改善をしてみたいと考えております。